

# カンボジアにおける病理サービス展開のための病理人材教育制度整備事業

- カンボジアでは、がんをはじめ慢性疾患が増加しているが、国内の病理診断体制は脆弱で、2017年人口1400万人に対して、病理医4名、病理技師15名、病理検査室のある公立病院は国内3か所のみであった。病理人材の拡充のため、国立保健科学大学(UHS)は、2015年から病理レジデントコース、2019年から臨床検査学科技師コースを開始した。病理科目を教えられる人材が不足しており、両コースの講義・実習指導の支援要請があった。
- NCGMIは、病理技術研究会、日本臨床細胞学会の病理専門医、病理検査技師と連携して研修を実施する。UHS技師コース学生に対して、日本人専門家がカンボジア人教員への指導を通じて、研修教材や病院実習における指針作成を支援する。UHSの病理レジデントに対しては、日本人専門家が講義と鏡検実習をオンラインで実施する。
- 病理検査学を学んだ臨床検査技師66名が2022年に、病理レジデント医6名が2024年に卒業し、カンボジア国内の保健医療施設で勤務可能になることで、病理人材の拡充につながる。また、技師コース支援では、カンボジア人教員が自ら教材を作成し講義を実施できるよう支援することで、自立的・継続的な研修プログラムの構築に貢献する。オンラインでの鏡検実習が効果的に実施できれば、将来的に遠隔病理コンサルテーションの導入に繋がる可能性がある。

